

Title	サル類保健飼育管理施設(I 研究所の概要)
Author(s)	小島, 祥三; 松林, 清明; 後藤, 俊二; 鈴木, 樹理; 松林, 伸子
Citation	霊長類研究所年報 (1994), 24: 36-38
Issue Date	1994-11-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/164612
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

学会発表

一和文一

- 1) 渡辺邦夫・東 滋・福田史夫 (1993): 福井県若狭地方におけるニホンザルの分布の変遷について. 第9回霊長類学会大会. 霊長類研究, 9:272.
- 2) 渡辺邦夫・川本 芳・竹中 修・浜田 稔・渡辺 毅 (1993): スラウエシマカクにおける種間雑種形成とハイブリッド・ゾーンの構造. 第3回熱帯生態学会大会. 予稿集, p.43.
- 3) 渡辺 毅・渡辺邦夫・浜田 稔・竹中 修・B. スリョプロト (1993): スラウエシマカクの雑種形成と種概念. 第9回霊長類学会大会. 霊長類研究, 9:285.

サル類保健飼育管理施設

小島祥三 (施設長・兼) ・松林清明・
後藤俊二・鈴木樹理・松林伸子¹⁾

平成5年度の施設の概況を述べる。

- 1) 長年にわたって予算要求を続けてきた第一放飼場の間仕切りと捕獲室の新設の工事が行われ、11月に完成した。これにより同放飼場は3区画に分割され、群管理や捕獲作業が容易に行えるようになった。また観察台は屋根を備えたので、雨天の観察が容易になり、飼育管理だけでなく、研究利用の便が向上した。
 - 2) 同じく類人猿行動実験棟の新設が認められ、11月より工事が開始された。同実験棟は本棟地下ケージ室と第三放飼場の一部を取り壊して建設されるため、多くのサルを一時的な場所に収容する必要があったが、検疫舎のケージ室を始め、上記第一放飼場にニホンザル一群を入れるなどして、竣工を待っているところである。検疫舎や本棟地下ケージ室の相当部分が使えなくなったために、今年度はサル購入や実験ケージ室の確保に支障が生じたが、所員や共同利用研究員の理解を得て、何とかしのぎとしている。
- 同実験棟が完成すると、チンパンジーには休日でも外で遊べる場所が出来、マカクは環境の良く

1) 教務職員

なかった地下ケージ室から明るい飼育室に移ることとなり、動物福祉の面で大きな改善が実現するわけで、関係者のご理解とご協力に感謝したい。

研究概要

A) サル類の生殖生物学的研究

松林清明

老化に伴う生殖機能の変化を調べるため、特にオスの生殖器の組織学的検索を行っている。またニホンザルとチンパンジーで、造成機能に対するストレスの影響をみる目的で、生前の実験歴を照合しつつ、同様の検討を行っている。

B) 実験用サルの動物福祉の研究

松林清明

ケージのサイズや構造によって、サルの空間利用率がどのように変わるかを実験的に調べている。また、他個体との同居が採食行動に及ぼす影響を始め、パズル餌箱によって採食時間を延長する効果を評価している。

C) サル類の寄生虫に関する研究

後藤俊二

ニホンザルの線虫感染に対する宿主反応や感染様式を調べるために、糸状虫の人工感染を行い、血液性状の変化等を検索した。また、野生ニホンザルおよびカニクイザルにおける寄生虫感染の疫学調査を進めている。

D) サル類の成長の生理学的及び形態学的研究

鈴木樹理

サル類の血中成長ホルモンの分泌動態を明らかにするために、ニホンザルとアカゲザルについて、連続採血並びに検尿を行なった。実験終了回復後、生体計測を行ない形態学的データを得た。これら成長ホルモンのデータと生体計測データを合わせて成長の解析を行なった。

E) サル類のストレス定量のための基礎的研究

鈴木樹理

日常的にサル類に負荷されている様々なストレスを定量するための基礎研究として、血中のリンパ球サブセットの割合およびNK活性を定量し、これらの日内変動について調べた。

論文

一英文一

- 1) Kondo, M., Kawamoto, Y., Nozawa, K., Matsubayashi, K., Watanabe, T.,

Griffiths, O. and Stanley, M. A.(1993):Population genetics of crab eating macaques (*Macaca fascicularis*) on the island of Mauritius. *American J. of Primatology*. 29:167-182.

- 2) Matsubayashi, K., Enomoto, T. and Nakano, M.(1994): Preliminary report on histological characteristics of male reproductive organs in senile Japanese macaques. *Anthropol.Sci.*102(Suppl.):199-205.

—和文—

- 1) 松林清明(1993): ヒマラヤ高地でのニホンザルの生理的諸事象. 関西実験動物研究会会報, 12:17-25.
2) 松林清明(1993): チンパンジーの実験医学への利用と飼育・繁殖をめぐる. 霊長類研究, 9:145-149.

学会発表

—英文—

- 1) Ishida, T. and Suzuki, J. (1993): Distribution and transmission of cell proliferative virus (STLV-1) among Asian

macaques. Proceedings of the second intercongress symposium of AOSCE. Progress in comparative endocrinology, pp. 79-82.

- 2) Suzuki, J., Kawamoto, Y., Isida, T., Takenaka, O. and Varavudhi, P. (1993):Morphological characteristics of macaques in Thailand. Proceedings of the second Intercongress symposium of AOSCE. Progress in comparative endocrinology, pp.92-93.

—和文—

- 1) 松林清明・榎本知郎・長戸康和(1993): 老齢オスニホンザル生殖器の組織所見. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9(3):281.
2) 松林清明(1993): チンパンジーの実験医学への利用と飼育・繁殖をめぐる. 平成4年度教育研究学内特別経費シンポジウム「チンパンジー」報告書, 145-149.
3) 鈴木樹理・後藤俊二・三輪宣勝・松林清明・寺尾恵治: アカゲザルに見られた自己免疫性溶血性貧血の1例. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9(3):293.

1993年度(平成5年度)サル類動態表

区 分 種 名	増 加	死 亡					
	出 産	実 験 殺	呼 吸 器 系 疾 患	消 化 器 系 疾 患	泌 尿 器 系 疾 患	そ の 他 の 疾 患	剖 検 不 能 等
コ モ ン ツ パ イ		1			1		
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン	11	2					5
コ モ ン マ ー モ セ ッ ト	11	1				1	
フ サ オ マ キ ザ ル	3					1	
ミ ド リ ザ ル				1			
ニ ホ ン ザ ル	41	47	1	3		3	1
ア カ ゲ ザ ル	37	43	2	2		2	3
タ イ ワ ン ザ ル	1	2					
カ ニ ク イ ザ ル	4	3					1
ボ ン ネ ッ ト ザ ル	1	2					
マ ン ト ヒ ヒ	1	2					
小 計	110	103	3	6	1	7	10
合 計	110			130			

注) (増加頭数)(減少頭数) 差引頭数

$$110 - 130 = 20(\text{減少})$$

1993年度(平成5年度)末飼育頭数

種 名	頭 数	種 名	頭 数
コ モ ン ツ パ イ	1	ニ ホ ン ザ ル	341
ワ オ キ ツ ネ ザ ル	3	ア カ ゲ ザ ル	230
オ オ ガ ラ ゴ	2	タ イ ワ ン ザ ル	15
コ モ ン マ ー モ セ ッ ト	21	ブ タ オ ザ ル	2
ワ タ ボ ウ シ タ マ リ ン	20	ベ ニ ガ オ ザ ル	2
ヨ ザ ル	11	ボ ン ネ ッ ト ザ ル	12
リ ス ザ ル	3	カ ニ ク イ ザ ル	55
フ サ オ マ キ ザ ル	14	セ レ ベ ス マ カ ク	2
チュウベイクモザル	1	マ ン ト ヒ ヒ	8
ケ ナ ガ ク モ ザ ル	1	シ ロ テ テ ナ ガ ザ ル	2
ミ ド リ ザ ル	5	ア ジ ル テ ナ ガ ザ ル	2
パ タ ス ザ ル	1	チ ン パ ン ジ ー	10
ミドリザル×パタスザル	2	合 計	766